



広報 ごじょうめ

発行／五城目町役場

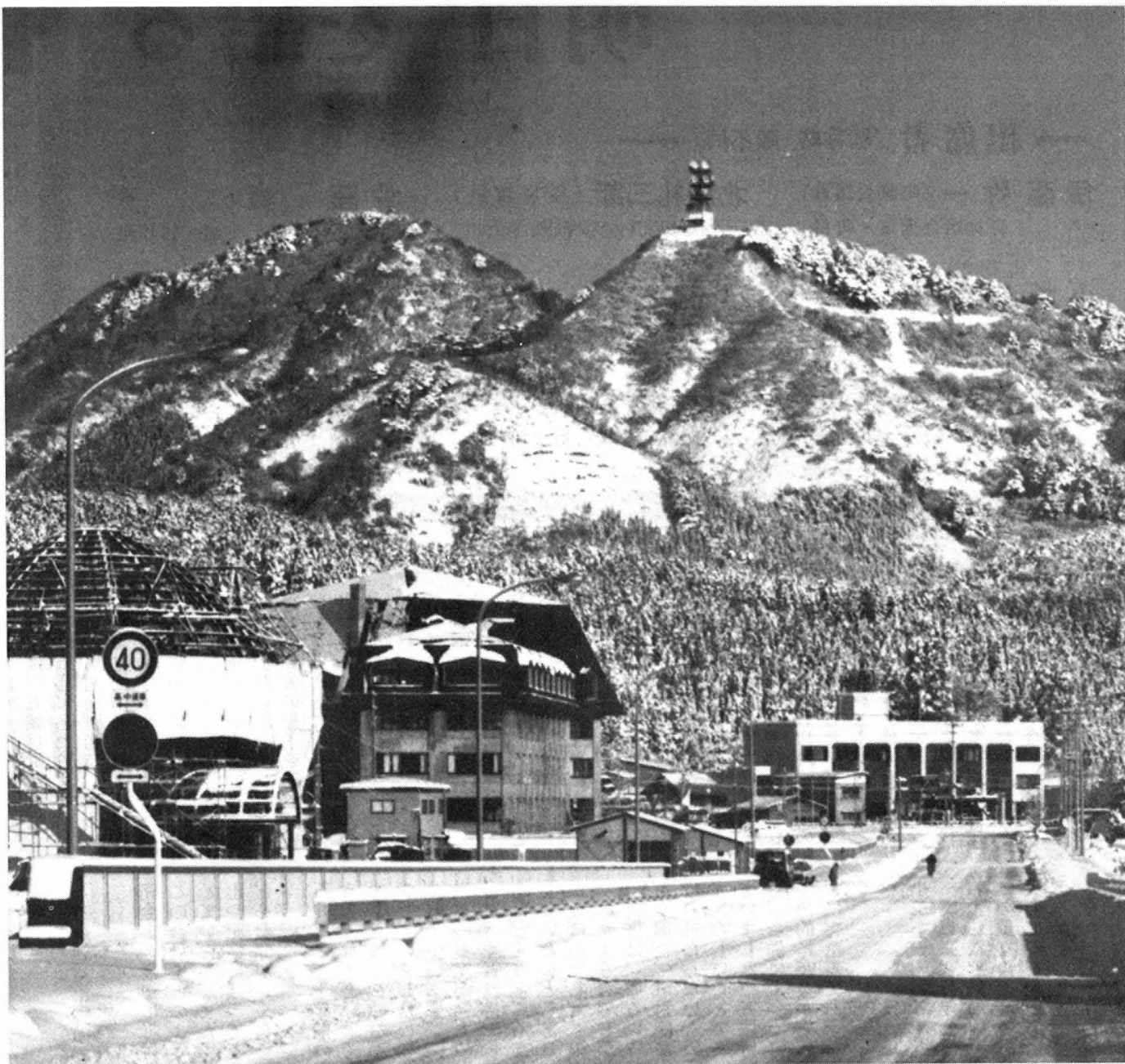
編集／文書広報課 ☎ 0188 (52) 2100 (代) 印刷／五城目印刷



昭和六十年
元旦

あけまして
おめでとう
ございます

本町の玄関口にふさわしい建物が並ぶ（左が建設中の共同福祉施設）



（
広報紙中にある写真を欲しい方には
おあげします
）

磯ノ目地区の土地区画整理事業は、昭和四十八年から始まり、今年が十二年目となります。

「悪土」の地名で呼ばれたこの地区ですが、今では整然と区画整理され、年々新しい家が建てられています。五十七年には、東磯ノ目町と西磯ノ目町の二つの新しい町内会が誕生。現在の世帯数は、両町内会合わせて五十二戸。

また、ここ数年の間に、役場庁舎と保健所が建設され、周辺には警察署をはじめ法務局の出張所、県土木事務所の除雪センターも新築されました。さらに、今年の三月には、磯ノ目大橋のそばに共同福祉施設が完成します。

磯ノ目地区を南北に走る国道二八五号線五城目バイパスも、六十年年度中には完成する予定で、本町の表玄関口としてふさわしい町づくりの姿が完成されることでしょう。

磯ノ目地区

ふるさと散歩

昭和60年

1月1日

（毎月1日・15日発行）

No. 507

わが町の“あゆみ”と “明日”を語る

新春座談会

— 出席者（敬称略・順不同） —

伊藤 弥一（町議会議員） 森林組合理事・町村	北島礼三郎（役場職員） 元南秋河辺町村会事務局長・大川	佐藤 貞（主婦） 主婦・古川町
小松 正直（教師） 大潟村教育長・館町	小玉 幸夫（青年会員） 森林組合参事・高田	石井 政勝（高校生） 農協内川支店長・黒土
館岡 悦子（小学生） 主婦・下高崎	加賀谷力司 五城目町長	伊藤 卓治……司会 五城目町助役 () 内は町村合併当時の職業等

司会……あけましておめでとうございます。
今年、五城目町が誕生して三十周年にあたります。そこで、町村合併当時、いろいろなお立場にあられたみなさんにお集りいただきました。「わが町の“あゆみ”と“明日”を語る」というテーマでお話を進めたいと思います。合併当時の思い出や、その後の町発展の様子を述べていただくとともに、これからの町づくりについて、きいたのないご意見、ご提案をいただければ幸いです。初めに町長からごあいさつをお願いします。

町長……あけましておめでとうございます。
今年、昭和六十年、西暦一九八五年。大変区切りのよい数です。また、みな様には、ご健勝でなによりと心からお喜び申し上げます。
三十年前、私は町議会議員を務めておりました。議員になって一期目だったと記憶しています。それ以降八年間の空白がありましたが、現在まで町議会議員あるいは町長として、みな様には大変お世話になっております。
合併当時は、まだ三十歳代で大変血の気が多く、みな様にご迷惑をおかけしたことも多かったわけですが、大変恥入っております。
二十一世紀まで後十五年です。年の改まったすがすがし

い気分の中で、みな様からお話をうけたまわりたいと思います。

町村合併当時の思い出は……
司会……最初に町村合併当時の合併をどのように受けとめていたか、また当時の思い出や記憶に残っていることなどを聞かせください。

石井……三十年前の印象という、なんといっても電車で。私は、この電車で毎日通学していましたので、強心に残っています。八郎潟駅で汽車の乗客が「あの電車に乗って行く五城目町というところはどんなところかな」と話していたこともあり、人々にはのぼのとしたものを与えてくれたような感じがします。
合併は、いろいろな事業を行う場合、町村圏が大きくなければならないという点で、すばらしいことであると思っています。五城目町の場合も、合併によって資源が増え、多角的に産業が集約され、非常に有意義であったと考えます。

小玉……昭和二十五年に学校卒業以来、青年会活動に没頭しました。矢場崎グラウンドでの数々の大会で、また雄弁大会で覇を競った記憶がよみがえってきます。
また、二十九年に森林組合に入った関係もあり、山に非

常に興味を持っていました。当時、採草原野であった所が、町の英断で地元の人たちに払い下げられ、奥地の人たちが一軒残らず山持ちになりました。田んぼがかなりあり、余裕のある人でなければ、山を持てなかったということを考えますと、人工林率の高い今日の五城目林業の基礎となつたと感じています。

伊藤……合併当時、馬場目村の村会議員として村政にタッチしておりました。任期の終わるころ、政府から町村合併をしないという指導がありました。地元住民は郷土に対して強い執着心があり、合併に賛成するのは、若い世代だけだったと記憶しています。
しかし、合併しないと村への交付金が止められるとあって、合併に踏み切らざるを得なかったわけですが、そして、その期限を翌年の三月三十一日と定められ、私たち議員の任期が一年延長されました。期限にまたにわたるため、非常にスピードをあげて合併が進められました。ですから、合併計画については、いろいろと粗末な点があったと、今でも考えています。
たとえば、面潟と五城目の境界です。後で直せばよいというところで合併したものですから、通学児童であれ、祭典であれ、今だに合併の後遺症が残っており、残念に思っています。

特集・五城目町誕生30周年



当時、私も若かったもので
すから、こんなことをして五
カ町村を合併するよりも、む
しろ七カ町村を合併して、湖
東市でもつくったらいと考
えていました。結局、五カ町
村と二カ町村に分かれたわけ
ですが、将来はやはり一つに
なるべきだとする考えは、今
でも持っております。

北島……当時、私は大川村の
役場職員でした。血気にはや
っていたこともあり、合併は
自分なりに非常に進歩的で必
要なことと思っていました。

当時は大同合併論と、五城
目と八郎潟を中心とした二ブ
ロックの合併論がありました。
私たちは、湖東部は大きくま
とまった方がよいのではと考
えていました。しかし、それ
ぞれの町村に事情があったよ
うで、最終的には二つのプロ
ックにまとまったわけです。

その過程で、私なりに非常
につらい思い出があります。
ご承知のように、大川に分町
問題が起りまして、私の生涯
であればどうたい思いをした
ことはありません。三十年た
った今考えてみますと、あの
ような大きな騒動は、大五城
目町という新しい地域社会を
生みだすための、大きな胎動
であったのでないかと思いま
す。

小松……町村合併という大変
大きなでき事について、それ
ほど印象に残っておりません。

と申しますのも、私は満州や
支那などを歩きまわっており、
私の人生の前半というのは、
全くといってよいくらい郷土
に縁がなかったからです。よ
うやく郷土に帰って来たのが
昭和二十九年でした。

小学生でしたので、当時のこ
とはあまり記憶に残っていま
せん。
記憶にあることといえば、
ガキ大将がおって、小学生も
中学生もみんないっしょに遊
んだということです。

町村合併は、時代の大きな
流れであり、当然のことと受
けておりました。
また、町村合併という動き
は、学校教育にも影響し、早
晩、学校統合が行われるだろ
うと考えました。事実、それ
から三年後の昭和三十三年に
五城目第一中学校が誕生し、
富津内の西分校が廃止されま
した。

町長……終戦と同時に復員し
てきて、青年会、消防団
などにたずさわって、そして町
議会議員になりました。

私の場合は、町村合併より
も学校統合の方が強く印象に
残っています。

当時、県の方針は大同合併
であったと感じていました。
しかし、議会には沢部だけの
合併案がだされました。それ
で我々若い連中が、大同合併
すべきであると主張しまして、
妥協案として面潟、大川、一
日市を含めた合併という案に
なると記憶しています。

佐藤……三十年前といっても
ボヤーとしていて、よく分か
らないですが、先日、家の中
から合併記念の時計がでてき
ました。それを見つけたとき
、当時、民生委員をしていた母
のことを思い出しました。

一番難行したのが一日市と
の交渉で、殺気だった雰囲気
で、とても話し合いにならな
かったと聞いております。

当時、私は三十代の前半で、
政治のことはよく分かりませ
んでした。県では七カ町村の
合併を考えていたようですが、
結局五カ町村の合併になりま
した。いろいろな問題があっ
たことは分かりますが、なぜ
みんななかよくやっていけな
かったのだらうと、今になっ
て思いだしております。

それではということ、大
川と面潟を加えての合併にな
りましたが、一日市の方では
大川、面潟をひとつのグルー
プにしたいという案を持って
おり、北島さんがお話しされ
たように、両町でいろいろと
いざこざが発生したわけです。

館岡……合併当時、私はまだ

「五城目町」と命名するこ
とについても、いろいろな意
見がだされましたが、最終的



佐 藤 貞



北 島 礼三郎



伊 藤 弥 一

には「五城目町」に落ち着い
たと記憶しています。

町村合併当時は、いろいろ
と地域的な問題が発生しまし
たが、最近はそのような地域
的感情のしこりもなくなり、
五城目町が本場にひとつの町
になったという感じを、強く
しております。

伊藤……合併後の町名につい
ても、我々はいろいろと考え
ましたし、村に帰っても何度
となく相談しました。議員の
中でもいろいろな案がありま
したが、どのような名前にな
っても不賛成者はでてくるし、
五城目の人たちも、このまま
の名前にして欲しいというこ
とで、首尾よく決まったとい
うのが、その時の状況でした。
みなさんもご承知のとおり、
市に吸収合併されたところは、
元の市の名前ですが、お互い
に合併して、その中心地の名
前をとっている町は、県内では
五城目町だけです。

町村合併後の 五城目町は…

司会……それでは、町村合併
後の町の発展、あるいは変ば
うについて、どのように感じ
ておられるか、お話し願いた
いと思います。

佐藤……町内には、いろいろ
な施設が建ち、大変恵まれた
環境になったと思います。
例えば、私たち小さいころ
は、川で泳いでいましたが、

今は立派な温水プールで、冬
でも泳ぐことができます。

私も、ママさんスクールで
水泳を練習しています。指導
の先生方に大変親切に教えて
いただき、本当にうれしく思
っております。

町外からの利用者も多いよ
うですが、町内のみなさんも
もっと利用して欲しいと思っ
ています。

佐藤……最近では、中央線な
ど道路が非常によく整備され
ました。これによって人の流
れ、車の流れが、昔とずいぶ
ん変わったように思います。以
前、人通りの多かった所が少
くなり、またその逆もあり、
道路行政とは難しいものだ
と感じています。

また、いろいろな施設がで
きましたので、これから大い
に活用していかなければなら
ないと思います。それには、
町当局のピーアールも必要で
すが、住民の意識も大切では
ないでしょうか。

先日、秋田市の方たちが、
町を訪れましたが、赤倉山荘、
朝市と好評でした。それで、
町内のいろいろな施設を利用
した観光も、考えてみる必要
があると感じています。

が、外観はもとより、内部の
展示もすばらしいと感心しま
した。広域体育館、温水プー
ルと町内の施設はどれをとっ
ても、本物ばかりであると思
っております。

中学校は、昭和三十三年に
富津内西と統合になり、そし
て内川、馬場目、大川と統合
したわけですが、子供たちが
うまく協調していけるか心配
しました。しかし、五城目町
の町民という連帯感のような
ものがあり、今考えると余計
な心配であったと思っており
ます。

北島……役場に勤めていた関
係で、合併後の思い出はたく
さんあります。

合併当時、町は財政的に非
常に困窮しており、合併後ま
もなく財政再建団体に指定さ
れました。そのようなことも
あり、当時は行政面の施策が、
非常に遅れていたのではない
かと思っています。

それが三十年後の現在では、
その遅れを取りもどしただけ
でなく、他町村より一歩進ん
でいると思っています。合併
当時の五城目町を知っている
町外の人にとっては、目を見
張るものがあると思います。

大川地区も合併と干拓で、
三十年前の姿は、想像できな
いくらい変わりました。

伊藤……我々は、合併したな
らば、このように町を発展さ
せたいという計画を持ってい

ました。しかし、当時は財政
的に窮迫しており、役場職員
の給料を期日に支給できな
かったこともあったと、記憶し
ています。

そのような状態でしたので、
我々の計画は実行に移せま
せんでしたが、現在は馬場目か
ら富津内に抜ける道路が完成
するなど、合併当時たてた計
画が実現しています。また、
私は合併したならば、不便な
奥地の方から整備すべきであ
ると主張しました。それも着
実に実行されているようで、
非常に感謝しております。

ただ、町の人口、世帯数と
も合併当時に比べて減少して
おり、残念に思っております。

小玉……町の民有林は約九千
ヘクタールあり、七千五百ヘ
クタールに植林されています。
そのうち七〇パーセントは、
合併後に植林されたものです。
それらの山々は、いよいよ
成熟期に近づいており、さら
に林道も整備され、五城目杉
の産地化を形成しつつありま
す。

これは、林家の方々の努力
と、行政の指導によるもので
あり、我が町の誇れる大きな
産業であると思っております。

石井……合併後の大きな変化
を私なりに考えると、全町大
運動会があげられます。これ
は、合併したからこそ勝負を
めきにし、全町民が参加する
レクリエーションになったと



石井 政勝



小玉 幸夫



小松 正直

政勝 当時、国道七号線や二八五号線の道路改良に尽くされた方々に、改めて敬意を表したいと思います。

また、国道二八五号線は、まだ県道でしたが、バスを通す運動が実り、中央交通と秋北バスの相互乗り入れが実現しました。その第一号バスに乗ったことが思い出されます。その後、国道に昇格し、現在改良工事が着々と進められております。

北島……国道七号線を改良する案が持ち上がったとき、大川町内を通る案と、もっと西側の八郎湖よりを通る案がありました。しかし、移動する家屋が多いことや、八郎湖町の中心部を通るということで、現在の位置に決まりました。

ここを国道が通ることになったことは、五城目町にとっても、また今になってみれば、八郎湖町にとっても、最良の方法であったと考えます。

思います。

また、五城目町には、広域体育館などの町内に誇れる優秀な施設がたくさんあります。以前、五城目というからには、城があるのではないかと、よく言われましたが、城の形をした森林資料館も完成しました。役場も立派な庁舎に生まれ変わりました。

やはり、こういう施設があるってこそ、我が五城目町であるという誇りを持つようになると思っています。

司会……町長から、これまでの町づくりについて、経過なども含めて、お話し願いたいと思います。

町長……いろいろなお話ができましたが、私が初めて町長に就任したときは、町は財政再建の指定町村になっていました。これは、合併のためにいろいろ経費がかかったこともありましたが、災害が多かったことも原因でした。

しかし、四、五年かけて解消する予定を、一、二年早く解消することができました。そして、また四十四年から町長を務めたわけですが、先ほど北島さんからお話がありました。国道七号線の件は、町長になる前の議会議長当時、私が単独で運動した結果であると、自負しております。

この件でお世話になった方は、石田博英氏、当時建設省の国道課長であられた谷藤氏、そしてもうお亡くなりになりましたが鈴木一氏です。何度も上京してお願いし、やっとのことで承諾していただき、祝杯をあげたという思い出があります。

国道二八五号線は、私が二度目の町長就任のとき、幹線道路を整備しなければならぬと考え、すぐに国道昇格の運動を始めました。幸いにもスルスルと事が運び、現在のような道路体系になりました。また、行き止まりの道路を解消したいと考えていました。

国道二八五号線は、昭和二十八年に車が通れるようになりまし、その後、馬場目の合地から秋田市の仁別に抜けるようにもなりました。さらに、内川の浅見内から琴丘町への道路も完成しました。

私は、合併しなければ、町内の道路網は現在のように整備されなかったと思っています。いろいろと施設のお話がありました。公共施設というのは、未来永劫（えいごう）とは言いませんが、個人の栄枯盛衰にかかわらず、長期間、使用されるということが、前提条件であると思います。個人の建物と町村の施設とは、根本的に考え方が違うわけで、そのような諸施設を計画的、体系的に建設するために、長期計画を作成したわけです。

あるいは、"ぜいたく"だという意見もあるかもしれませんが、長い目で見れば、"ぜいたく"でもなければ、高くもないし、結果的には安上がりになるであろうと信じております。

今後の町政に期待することは……

司会……最後に、今後の町政に期待すること、あるいは希望、要望などをお聞かせください。

石井……特に、人口の流出をくい止める方策が必要であると考えます。私には、具体的な妙案が考えつきませんが、今の時代はマスコミの話題に

なることだと思えます。五城目町の何かひとつが、テレビなどに取り上げられると、それが観光になり、町内生産物の消費にもつながるのではないかと思います。

限られた財源の中で、一万六千町民の要望を取り入れながら、町政を運営していくことは、大変な苦労があると思います。しかし、町の発展には限りはないわけで、そのためには、我々も町民として協力していかなければいけないと考えます。

小玉……町の総合発展計画が作成され、それに基づいて、町は発展していくと信じています。

昨年、町の工場誘致が実現し、町の経済活性化に大いに貢献してくると思います。

また、五城目杉の産地化が形成されつつあります。今後は、安定供給のできるように、行政の援助をお願いします。

伊藤……人口の減少をくい止めることは、大変むずかしいことだと思えます。

我々が議員をしていた当時も、町内の職人さんたちに補助、助成を行いました。なかなか量産化ができませんでしたが、腕はよいけれども、量産できないと商売になりません。

全県的、あるいは全国的に、これだけは五城目町でなければならぬというのが、今

伊藤……人口の減少をくい止めることは、大変むずかしいことだと思えます。

我々が議員をしていた当時も、町内の職人さんたちに補助、助成を行いました。なかなか量産化ができませんでしたが、腕はよいけれども、量産できないと商売になりません。

全県的、あるいは全国的に、これだけは五城目町でなければならぬというのが、今

伊藤……人口の減少をくい止めることは、大変むずかしいことだと思えます。

我々が議員をしていた当時も、町内の職人さんたちに補助、助成を行いました。なかなか量産化ができませんでしたが、腕はよいけれども、量産できないと商売になりません。

全県的、あるいは全国的に、これだけは五城目町でなければならぬというのが、今



伊藤 助 役



加賀谷 町長



館岡 悦子

小松……五城目町における伝統的なものを、残していつて欲しいと思います。

五城目町は、古くから湖東部の中心として栄えてきましたので、伝統的なものがたくさんあります。朝市、職人さんの技術、番楽など、なくして

五城目町は山が多く、植林が非常によく行われています。この広大な山を別の産業にも結びつけられないものでしょうか。先日、テレビで鹿の放牧が紹介されましたが、おもしろいアイデアだと思いました。

新しい道路計画が打ちだされていますが、東北縦貫自動車道の次が、日本海側の高速道路というような話もあります。また、秋田外環状線の計画もあるようです。このような道路体系から、五城目町がとり残されることがないようにお願いします。

北島……高齢化社会に対応した住みよい町づくりも、忘れないでください。核家族化が進んでいます。若い人も年寄りと一緒に暮せる環境づくりが必要であると思います。

後の町の発展にはぜひ必要だと思えます。そのような産業とか工場がなければ、国道が整備され、施設ができたからといって、人口の減少をくい止めることはできないと思います。

館岡……今の子供たちは、体

夢のような話ですが、町でも事業などを行う場合、最近よく耳にします第三セクター方式で、民間の力を大いに利用したらどうでしょうか。

最近、生涯教育が盛んになりましたが、その成果の発表展示に適した場所が、町内にないように思います。ふだん気軽に作品を展示できる施設が欲しいものです。

佐藤……私が小学生のとき、町山の植林地を見せられて、「あなた方が大きくなったときは、税金も何もとらない町になっていきますよ」と言われたことを覚えています。時代が変わり、あれは夢のまた夢だったんだと思っています。

ところで、昨年のオリンピックは、民間人がタッチしたため、二百三十億の利益があったと聞いてびっくりし、民間の力とはすばらしいものだと思います。

町長選挙

**2月17日に
投・開票**

町の選挙管理委員会は、十二月二十日の会議で、任期満了に伴う町長選挙の日程を次のように決めました。

▽告示日 二月十二日（火）

▽投票日 二月十七日（日）

▽開票 二月十七日（日）

（午後七時から
役場正庁で）

町長……二十一世紀のゴールが、目の前に見える段階になりました。そのために、町民のみな様のアンケートを土台にして作成しました発展計画を、忠実に軌道に乗せたいということが、私の結論でございます。

いろいろなご提案、ご意見がありました。ご発言いただいたことも加味しながら、

格は立派ですが、体力が伴わないと言われています。

私の地域の小学生たちは、スクールバスを利用して通学しており、歩くことが少なくなりました。いろいろな問題もあるでしょうが、私の地域は歩いて通学できる距離でもあり、スクールバスの利用を見直した方がよいのではと思っています。

司会……大変つたない司会にもかかわらず、率直なご発言ありがとうございました。みなさんにとりまして、また町にとりまして、すばらしい年でありませう、ご祈念申しあげて、終りにしたいと思います。

司会……大変つたない司会にもかかわらず、率直なご発言ありがとうございました。みなさんにとりまして、また町にとりまして、すばらしい年でありませう、ご祈念申しあげて、終りにしたいと思います。

北島さんから、秋田外環状線についてご発言がありました。この道路は、おそらく今年中に方針が定まると思えます。この道路の開通が、町の発展につながるように、検討したいと考えております。

時代の価値観は、物から心へと移り変わり、これからは、やはり町民自身の意識、創造力、努力といったものが、大切になってくると思います。

すっかりした「町民性・魂」を腰をすえて、お互いに築き上げていく年にしたいものだと、念じております。



初春をうたう

川柳すずむし吟社

いい夢を見させてもらう三カ日
新年のドラマへ五十の陽が昇る
孫主役初春へ乾杯つつがなし
孫へ掌を添えて柏手初詣
正月にどっぶりつかる北の酒
新しいページに挑む初詣
おせちへもしきたりを入れ母達者
牛の意地借りて不況の峠越え
折返し地点男の厄払い
可も不可もなく目出度い初日の出
初詣景気占う手の響き
飢餓のない幸せおもう鏡餅
元朝の空へ平和の風を上げ
正月の戯画からもう日本の美
当り年今年はいいことありそうだ
お年玉小さい順の掌に乗せる

柴田トキ子
細田 陽炎
一関 北柳
菊地 一竿
渡部 光人
柴田 銀河
佐藤 貞
荒川祥一郎
坂谷 竹林
渡辺 松風
渡辺 寒坊
越後 一蝶
今野 一城
荒川柴陽花
渡辺 銀雨

館町川柳楽しみ会

超然としてゆるぎない初日影
肩の荷をどっかとおろす年の暮
元朝の天へ矢をつぐ当り年
初出の陽腕を翳して血を湧かす
年新らた孕みし牛の背を撫でる
初詣り仕立おろしのしつけ抜く
明ける新春一歩ずつの計夢を織る
新年の画布へ絵具を溶いてみる

石川 富司
伊藤 酒泉
加藤 円心
長沢 仙里
本間 酒泉
長沢 山女
本間 玉女
細田 陽炎

黛吟社

初鶏の声高らかに隣家より
屠蘇受けて只円ろやかな爺となり
天と地へ合掌をすお元旦
初雀軒下さえずるにぎやかに

伊藤 碧山
猿田 天鳴
越後 一蝶
石井 進

俳誌「円」竜胆の会

元旦や生き甲斐短詩詠みて明け
去年今年世にあることもなきことも
豊作の機具手入れして松飾る
初売りや婆新札を確むる
蔵開樽より地酒ほとばしる
初日の出あまねく映に耀やけり
ふるさとの見える目正しく初明り
やんわりと堆肥盛り照らす初日かな
大鳥居初日を仰ぐ人の声
正面に神ましまして年来る

伊藤 雅光
斉藤 諒一
斉藤耕之助
三浦 緑葉
沢田石和子
石井 溪堂
草皆 茂樹
本間 艶子
本間 米吉
北嶋 温石

婦人会短歌クラブ

初日得て新しき村輝けり
産声が弾む我が家の新春三日
初灯りどしと居座る千支の牛
豊作も去年にさそいし除夜の鐘
家計簿を新しくして松飾
森山の五の字に映える初日の出
赤き実を抱きて万年青の初日吸う
初釜や風の音絶ち湯の音に
初湯汲む障子雪片ゆるやかに

田村 陽子
千貝 魂
沢田石和子
館岡 絢
小林 恒子
佐々木敏子
猿田ひろ子
石井 貞子
大島つむぎ

婦人会俳句クラブ

甘酒の熱さに母を想いけり
新年の仁王にみなぎる力瘤
春衣(ぎ)着て娘新たな節を持つ
少女らの頬に風花紅を挿す
稚(わか)松の緑も濃しや初酉
神苑の巨き木仰ぎ初詣
雪粧う山の五の字の初景色

阿部 みわ
近江 三保
伊藤 みゑ
大原 春
加藤 敬子
川村 タキ
細田 ミナ

婦人会川柳クラブ

寄せ植えの梅から新春の音を聴く
年金の身にも夢あり初日の出
のんびりと牛の歩巾に妥協する
お年玉孫集合の刻を待つ
またひとつ年を重ねる風師走
黒豆に味もしみてる初春の膳
七転び八起き決意の初日の出
長生きの余白に新春の彩を足す
初鐘受けて今年の彩を溶く
新年の戸口に立って深呼吸
書き替えるドラマへ新春の深呼吸

千貝みどり
平川みつえ
藤原 文
八木下みきゑ
石井トモ子
福島 ミツ
渡部 姚子
佐々木敏子
松田ウタ子
草皆 チェ
鍋谷 福枝

正月の里の鴨居に苦勞せし
母にこやかに亡父とならべる
念願の六曲びょうぶしつらえて
とそ汲みかわす夫とうからら
初空はこよなく晴れてめぐりいる
鳶(とび)の笛聞く孫と並びて
如来寺と遠き森山の除夜の鐘
響きてくれば掌を合せいぬ
朝朝に六時を告ぐるオルゴール
鮮(あたら)しく聞く元日の朝
赤レンガと白壁の倉街灯は
初雪映すあかときの町

ふくゑ
みきゑ
けい子
とみ子
てい
みわ

謹賀新年



あけましておめでとうございます 今年は私たちの年です

一つの節目を迎える

西野 千田 ミチ子

日本の女性の寿命が、七八歳とも九歳ともいわれる今日、折り返しを終え、復路の人生を歩んでいることに、今さらのごとくひとしお感慨深いものがあります。長かったような、またつかの間のできごとのようにも思われます。

農家に嫁いで二十八年。自分なりに努力してきたつもりですが、現在の農村は米過剰基調ムードで転作やら減反やら悲しむべき現状といわざるを得ません。そんな中にあるのも、農村も農家の仕事も私は嫌いではない。

長い冬、灰色の雲の切れ間から輝く太陽、春の到来です。田園の土も日一日と黒くふくらみ、やがてトラクターによる耕起作業が始まる。そして、



大豆を選別する千田さん

あると思う。
さて、四十八歳の年女も当然子供二人の母であり、いやもう「オバアサン」でもあります。結婚した長女に子供が二人、可愛い私の孫でもある。長男は今春、社会人として雄々しく羽ばたく事と信じている。子供ができ孫ができるということは、人生の幸せの頂点だと思いますが、逆に自分がそれだけ老齢に達することでもあると思います。

昨年の四月、父が脳こう塞でたおれ、半年入院しましたが、入院中の患者さん、そして付き添いは、家族同様の交わりがあり、コミュニケーションが生まれます。同室はもちろん、病棟の患者さんの症状に一喜一憂する、力及ばなかった方にはみなで涙し、退院の患者さんにまた喜びの涙する病院生活です。そこには人間同志の裸の交わりがあります。私は、この病院生活をほんとうに貴重な体験として、自分の今後に生かされると信じております。機会を見て、当時の患者さんのその後を訪問して見たいと思っております。
最後に、忙しい忙しい、ほんとうにつかの間のそういう感じのこれまででしたが、年女として一つの節目を迎え、これまで以上に人生にファイトを燃やし、「忙中閑あり」のことわざのごとく、自分の趣味を生かし、よりすばらしい人生を歩んで行きたいと念じております。

町営住宅のアイデア募集

優秀作を矢場崎に建設

町では、町内の工務店、建築士、大工などのみなさんから、町営住宅設計のアイデアを募集して、それに基づいて矢場崎分譲地にモデル住宅五戸を建てる計画です。
本町は建設省の指定を受け、町の自然的、歴史的、文化的要素の保全と活用による町づくり、住まいづくりを内容とする地域住宅計画（ホープ計画）を策定。在来工法による木造住宅の見直し、地場産材（秋田杉）の有効活用と技術開発による地域住宅産業の振興、そして緑豊かな町づくり

に取り組んでいます。

この一環として町営住宅についても、従来の画一的な構造、外形にとらわれず、一戸一戸に変化を持たせるなど、ホープ計画にふさわしい住まいを目指しています。このような町営住宅は、昭和六十年代から毎年、五戸ずつ計二十戸建てられる予定です。

今回のアイデア募集も、ホープ計画にふさわしい町営住宅を建設するために行うもので、本町の木造住宅のモデルとなりえる優秀な作品五点を採用します。審査は、町長はじめ東京大学工学部渡辺助教など五人の審査員が行い、採用した作品には賞金三万円が贈られます。

募集内容は次のとおりです。
▽アイデアの条件

①公営住宅法、公営住宅設計基準および建築基準法に適合すること。

②地場産材（秋田杉）活用による木造一戸建てであること。

③本町のまちづくりおよび、住環境整備に資するものであること。

④積雪寒冷地を考慮し、居住性に優れた住宅であること。

⑤在来工法で施工できること。

⑥木製サッシなど研究開発部品の活用、生産技術システムの改善に資するものであること。

⑦対象入居者を想定すること。

▽建築基準
①建ぺい率等
・建ぺい率五〇%以内、容積

私にとって正念場

新畑町 荒川 誠

ふるさと五城目在住のみな様、各地で活躍している同期生のみな様、新年明けましておめでとうございます。

私達の生まれた昭和二十四年丑年、この年は全国的にも二十二年をしのぐベビーブームの年でした。中学時代、五城目第一中学校では、A組からH組まで五十人以上のクラス編成で、職員室の隣りまで教室にしなければならぬ程の人数であったことを記憶しております。したがって、高校・大学と入試もきびしい狭き門でした。そして、昭和四十八年丑年、戦後とどまることをしらなかった高度成長期の終えん。社会へ出て職場の窓口も狭く、しかしなが

らお互いにこの難関をのりこえて来られたのも、丑年生まれのねばり強さのゆえんであると自負しております。

私は大学卒業後四十八年の丑年の春、商売をと決心、帰郷いたしました。数年後、父の事業のうち石油部門を担当。五十五年、隣接地でタイヤシヨップを開設、今日に至っております。町に帰って十年を一つの目標に頑張りましたが、商売の道はきびしく、競争のはげしさには若さで勝負してきました。幸い同期の丑年生まれの友人達が町内に在住しており、それぞれの職種の異なる道を歩みながらも時には酒をくみ交し、また深刻に時代を論じあい、お互いを研鑽

し合って参りました。はいいもので私達の人生にとって四回目の丑年がめぐってきまして。

我が五城目町も、国道二八五号線バイパス完成で、や々と近隣町村との垣根がとれ、秋田市との距離も、心理的に近くなります。五城目町が単なる通過町村になるか、それとも町発展の起爆剤になるか

にかかっていると思われまます。私は昨年十一月、秋田市飯島に「走り音のプロシヨックピット秋田」店の新店舗を開設。真向いには五城目町の先輩の家具屋さんありで、六十年の丑年は、私にとって正念場であると思い、丑年生まれ生来のねばり強さを信条に、大いに頑張りたい所存です。

三つの目標めざして

大川小学校五年 佐藤 礼子

牛年に生まれ、今年が年女の私です。六年生になるので、がんばりたいという目標が三つあります。

まず、私の一番の目標は、学力をつけるということです。たとえば、テストなどで満点はとらなくとも、せめて八十点はとることです。八十点とったら九十点めざし、九十点とったら百点をめざす、という事です。いつも、八十点とったりしても、次のテストでは七十五点だったりして、グラフに直してみれば波のようです。少しでも点がとれるように、いつも頑張りたと思っています。

次に頑張りた目標は、なんでも根気よく気長にやることです。勉強でも、家での手伝いでも、いつも「今日は、最後までやるぞ」と決意しても、だんだんやっていくうち

にかかっていると思われまます。

私は昨年十一月、秋田市飯島に「走り音のプロシヨックピット秋田」店の新店舗を開設。真向いには五城目町の先輩の家具屋さんありで、六十年の丑年は、私にとって正念場であると思い、丑年生まれ生来のねばり強さを信条に、大いに頑張りたい所存です。

にかかっていると思われまます。

大川小学校五年 佐藤 礼子

牛年に生まれ、今年が年女の私です。六年生になるので、がんばりたいという目標が三つあります。

まず、私の一番の目標は、学力をつけるということです。たとえば、テストなどで満点はとらなくとも、せめて八十点はとることです。八十点とったら九十点めざし、九十点とったら百点をめざす、という事です。いつも、八十点とったりしても、次のテストでは七十五点だたりして、グラフに直してみれば波のようです。少しでも点がとれるように、いつも頑張りたと思っています。

次に頑張りた目標は、なんでも根気よく気長にやることです。勉強でも、家での手伝いでも、いつも「今日は、最後までやるぞ」と決意しても、だんだんやっていくうち



佐藤さんの席は教室の最前列

最後に、私自身の健康です。しょっちゅうカゼをひいたり、足をくじいてねんざしたりということが、大変多いのです。それで、医者通いすることが多くありました。

になると、力をはっきする牛のような力強さをもてたらいいなあと思います。今年、私の年でもあり、また、六年生という最上級生

- 率八〇％以内。
- 壁面後退は隣接敷地境界線から二m以上、道路境界線から三m以上。
- 木造平屋一戸建。
- 物置(三・三平方m程度)
- と駐車スペースを設ける。
- ②一戸当たり建築面積
- ・第一種 六一・四
- ・第二種 五八・一
- ③一戸当たり建築費
- ・一平方m当たり十万円以内(給排水施設、雪害防除施設、電気ガス施設などを含む)
- ▽応募方法
- ①設計図、略図、説明書など様式は自由ですが、必ず仕様概要の説明書と、住所・

- 氏名(団体の場合は団体名と代表者名)・電話番号を明記した用紙を添付してください。
- ②設計図の場合は配置図(二百分の一)、平面図、立面図、断面図(それぞれ百分の一)を提出してください。
- ▽募集締切 一月三十一日
- ▽提出先・問い合わせ先 役場建設課(担当・伊藤)
- 電話 5212100
- 第30回
- 卓球打初め
- ▽主催 五卓会
- ▽日時 一月二日 午前九時～正午
- ▽会場 広域体育館
- になります。学力・根気・健康めざして、今年、いままでの年より、もっともって頑張って、有意義な一年にしたいと思っています。

還暦を迎えて

上樋口 鳥井市朗

今年は乙丑(きのとうし)年に当り、大正十四年生まれの私は、まさしく還暦を祝う当り年。いま六十一年間の歳月



白鳥にエサをあたえる鳥井さん

並とは言えないまでも、ここまで生きてこられたことは、ありがたく幸せだと思っております。

大東亜戦争さなかに学校卒業(昭和十七年)。「御国のためだ」「兵隊だ」「食糧増産だ」「学徒動員、勤労奉仕だ」とせわしく走りまわり、間もなく昭和十九年徴兵検査があり、翌二十年の春三月、現役兵として弘前に入隊。

しかし、時すでに戦色重く、部隊は戦地に渡れず、内地勤務で群馬県・相馬ヶ原で終戦。郷里に復員して来たのは、今の成人式に当る若さでしたので、青春の思い出は、終戦後の青年会活動が始まりでした。

さて、五十一年の春、人にすめられて、鳥獣保護センターで仕事しております。最初は年だからやれるかどうか

心配でしたが、センターは家から近いし、静かで空気もよいし、山の管理や野生鳥獣の保護、そして見学者等の案内などと、年も忘れ頑張っております。

鳥獣の世話をしていてふと思うことは、十二支の中に入っている鳥獣は、人間の生まれ年と性格が似るとか似ているとか昔から言われていますが、私のように丑年生まれは、牛の性格に似てるかどうか、他人が見ると一番よくわかるも

のではないのでしょうか。

実は、私の愚妻も丑年生まれですから、似たもの同志だようです。牛と似てのんびりやで、急ぐこと知らず、だが、つっぱりはないから全部が全部、似るものでもないかもしれません。

最近特に平均寿命も延び、まだまだこれから健康で牛のごとくあせらず、とまることなくのんびりと、そして、世のため人のためになるよう心掛けて暮そうと思います。

前進する踏み台の年

畑町 伊藤康子

私は牛年生まれである。しかし、まわりの人に「いかにも牛年生まれらしい」などと言われると、牛の鈍重とした様子を思い浮かべては、確かにその要素はあると思いつつも、当り年というものに反感を覚えていた。そのせいか、自分が牛年だということを特別意識したことはなかった。

しかし、今年は牛年である。自然に意識させられてしまう。そして、逆に、自ら進んでそれを意識し、そのことに特別の意味を持たせ、何かのきっかけになる年にしたいという思いを強くする。

特に私の場合、今年は社会人として初めて迎える新年ということにもなり、学生という立場で迎えた去年までの新

そして、それが全てだという思いがあった気持ちも、ない訳ではなかった。

卒業してすぐに就職できなかった私は、確かにまわりの人より数歩遅れてしまったかもしれない。しかし、そのおかげで、自分のこと、あるいはこの町のことを、新に見つめ直す心のゆとりができたようである。

高村光太郎の詩の中に、「牛」という詩がある。概略は次のようである。

「牛はのろい。恐ろしくのろい。周りには目もくれずただひたすら歩いていく。あの重い体重で大地にしっかりと踏み張って、のろいけれども一心不乱に着実に前進している」牛は、のろいだけではなく、確実に前進していくはずだ。私も、自分の目標に向かい、一步一步着実に前進するためにも、今年をその踏み台の年にしたい。



中学生のときから卓球を続けている伊藤さん

歳末たすけあい募金

50世帯と621人に贈る

昭和五十九年度歳末たすけあい募金に、町内のみなさんから総額百三十九万九百五十四円の義援金が寄せられました。募金の内訳は、戸別募金三千六百四十九世帯から百三十五万五千六百十三円、ボーイスカウトなどの街頭募金三万五千三百四十一円となっています。

この義援金は、十二月二十五日と二十七日に、交付対象となった五〇世帯と六百二十

一人に贈られました。その総額は百三十六万三千五百円、残りの二万七千四百五十四円は、郵便料など配分に要した需用費にあてられました。

義援金の配分は、配分委員会が民生委員四十九人の調査に基づいて次のように決定しました。

- ▽生活保護受給者(二七七人) 一七万七〇〇〇円
- ▽ボーダーライン世帯(四三三世帯) 一五万五〇〇〇円
- ▽ボーダーライン世帯の人(二四二人) 三五万五〇〇〇円
- ▽母子世帯の人(六七人) 一六万七五〇〇円
- ▽父子世帯の人(二二人) 五万五〇〇〇円
- ▽重度心身・身体障害者(二三人) 五万七五〇〇円
- ▽ねたきり老人(九人) 二万二五〇〇円
- ▽一人暮らし老人(三三人) 八万二五〇〇円
- ▽老人夫婦世帯(七世帯) 二万八〇〇〇円
- ▽福祉施設入所者(五六人) 一万二〇〇〇円
- ▽長期療養者(七八人) 一五万六〇〇〇円

冬期間の交通確保のため

14業者に除雪を委託

町では、冬期間の交通を確保するため、町の除雪車で回しきれない路線については、町内の建設業者などに除雪作業を委託しております。

委託業者と担当路線は次のとおりです。

▽伊藤組 加藤政光

電話52-4638

東磯ノ目北一丁目線、同北二丁目線、同東線、羽黒前線、上田町線、帝釈寺小猿沢線、同三ヶ沢線、町村三郎平衛線、同善太郎小路線、同谷地小路線、下山内向村線、下山根線、上広ヶ野線、大手線、富田寺沢線、同上小路線、同杉野線

▽今村建設 今村留治
電話52-12558
栄小路線、しのお通線、梅林小路線、鶴ノ木稲荷線、七倉種沢線、幼稚園通線、了賢寺

▽伊藤組 加藤政光
電話52-4638
東磯ノ目北一丁目線、同北二丁目線、同東線、羽黒前線、上田町線、帝釈寺小猿沢線、同三ヶ沢線、町村三郎平衛線、同善太郎小路線、同谷地小路線、下山内向村線、下山根線、上広ヶ野線、大手線、富田寺沢線、同上小路線、同杉野線

▽今村建設 今村留治
電話52-12558
栄小路線、しのお通線、梅林小路線、鶴ノ木稲荷線、七倉種沢線、幼稚園通線、了賢寺

▽伊藤組 加藤政光
電話52-4638
東磯ノ目北一丁目線、同北二丁目線、同東線、羽黒前線、上田町線、帝釈寺小猿沢線、同三ヶ沢線、町村三郎平衛線、同善太郎小路線、同谷地小路線、下山内向村線、下山根線、上広ヶ野線、大手線、富田寺沢線、同上小路線、同杉野線

▽今村建設 今村留治
電話52-12558
栄小路線、しのお通線、梅林小路線、鶴ノ木稲荷線、七倉種沢線、幼稚園通線、了賢寺

路上駐車は除雪の邪魔

道路の除雪は、主要な幹線道路から随時行い、できるだけ早く各地区の町道に入り、次のことを守ってください。

- ①路上駐車をしない
- ②路上に物を置かない

③道路に排雪しない
④路上へ雪の落ちる屋根の場合には雪止めをつける
特に路上駐車の場合、除雪ができないこともあり、十分留意してください。

また、幅四メートル以下の狭い路地などには、除雪車が入りませんので、町内のみなさんが除排雪を行うようお願いいたします。

線、同下村住宅線、同下村支線、同下村旧県道線、同下村線、同小沼線、同線、坊村白旗川端線、雀館東線、

▽高森建設 小野政雄
電話52-9088
浦横町線、浦横町西線、同幹線、小立花線、鏡沢線、白水沢線、岡本家ノ下線、同南線、同ニラ山線、同川崎線、野田開線、同開支線、同清浦線、同開防線

▽草皆商事 草皆誠悦
電話52-2619
帝釈寺川端線、同三ヶ沢線、町村門前線、同長太郎小路線、同中央線、門前剣林線、同産土上線、同寺下線、蓬内台山手線、同公民館線、同中央線、寺庭中村線、大吹沢線、中屋敷線、

▽佐々木工業 佐々木喜久也
電話53-2225
蓬内台中通線、同中央支線、小野台線、小野台中線、寺庭悪線、同中線、同柳沢線、同上村線、同水上線、中村後村線、同後村支線、同巡査小路線、同田山線、同田山支線、同権兵エ支線、同権兵エ線、大吹沢支線

▽金野組 金野 勇
電話53-2850
水沢線、水沢黒山線、同馬道線、松樹院前線

▽佐々木建設 佐々木茂夫
電話53-2449
恋地上丁線、坊井地線、杉沢貯木場線、同中通線、同中央線、恋地神社線

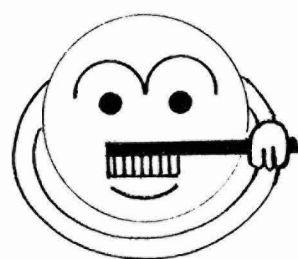
▽磯建設 佐々木茂美
電話53-2449
恋地上丁線、坊井地線、杉沢貯木場線、同中通線、同中央線、恋地神社線

▽赤坂建設 赤坂賢治
電話75-2749
大川今戸支線、同西住宅小路線、長太小路線、大川寺小路支線、同下川原線、同寺小路線、下樋口川端線、石崎裏通線、樋口下樋口線、西野四ツ屋川端線、同田中線、同八幡前線、同下村線

歯の健康シリーズ

No.19

歯みがきの習慣 ②



〔シンボルマーク
応募作品から〕
馬場目小六年
金野 亘

起きたとき？朝食後？

朝食後に歯をみがく方が合理的だと知っていても、実行できない人がいます。朝は忙がしいからそんな暇はないとか、気持ちが悪いくから起きたときにみがくことを理由にします。

「三分間みがきなさい」とよくいいます。歯みがきの時間を計ると二分は長い方で二十秒の人もあります。そのために、せめて三分はみがいてほしいと考えたからでしょう。

習慣を変えるのですから大変です。はじめは二度みがくのも方法です。また最初のきっかけは、寝る前の歯みがきを完全にやっておくことです。そうすれば朝の気分がよくなります。

朝食はとらないから、歯をみがく必要はないという人がいます。ぜひ、歯をみがくために朝食をとってください。これは冗談ではなく、歯をみがくことは歯の健康のためですが、朝食は体のために必要です。

「三分間みがきなさい」とよくいいます。歯みがきの時間を計ると二分は長い方で二十秒の人もあります。そのために、せめて三分はみがいてほしいと考えたからでしょう。

習慣を変えるのですから大変です。はじめは二度みがくのも方法です。また最初のきっかけは、寝る前の歯みがきを完全にやっておくことです。そうすれば朝の気分がよくなります。

朝食はとらないから、歯をみがく必要はないという人がいます。ぜひ、歯をみがくために朝食をとってください。これは冗談ではなく、歯をみがくことは歯の健康のためですが、朝食は体のために必要です。

三分間みがきなさい？

親と子の健康な歯づくり
運動推進委員会養護部会

五城目町文学作品俳句部門優秀作品

入選

五城目城

沢田石和子（湯ノ又）

黒揚羽亡夫や先祖の使いとも

指輪無き指太くして盆の市

迎火や亡夫との出会い子に聞かす

女郎花ひと咲きおり五城目城

大花火五城目城を浮彫に

入選

盆雑唱

猿田 天鳴（下樋口）

螢籠吊って児の夢ふかくしぬ

墓参の灯確かめきてもふり返る

うすものの僧衣の起ち居綾流す

盆雨きて一と刻せわし鎖樋

豆腐屋のホースがはせて朝涼し

佳作

春隣り

伊藤 芳穂（町村）

彩殖ゆる妻のエプロン春隣り

万緑の視野なつかしき母校かな

嫁ぐ娘を諭す正座や夏座敷

炎天やこそりと路地の垣うごく

子等去りて無口の路地や盆の果て

佳作

道

本間 艶子（館越）

万緑へ子は石投げを繰り返す

郭公や今来し道を振り返り

水呑むに鶏の爪立つ薄暑かな

水底は知らずに沼のあめんぼう

けむり茸けぶらし下るけものみち

佳作

十三夜

石井 貞（新畑町）

乱れ菊乱れしままを活けにけり

亡子の机切抜数多一葉忌

本買って心ゆたかや十三夜

父の忌や白菜に散らす唐辛子

干大根われ十本ほど良き日和

作品評

（選者）石沢 洗尽

応募作品全部で十七点。今回は

例年に比し比較的力作多く嬉しく

鑑賞した。入選、佳作、選外共あ

まり力量に格差のないものと思っ

た。五句の中にムラがあり、平均して

力を出していないものは選外とし

た。

入選作……沢田石和子の「五城

目城」は、あくまでも身辺の瑣事

（さじ）を直視して詠んだ情感の

豊かな作品である。いわゆる作ら

れた句でない真実性を推したい。

猿田さんの「盆雑唱」は、うら

盆ころの幽雅な感情を良く織り込

んで秀れている。「うすものの僧

衣の起ち居綾流す」などと感覚表

徴は良く季節感をとらえている。

佳作……伊藤さんの「春隣り」

は、しっかりした作句法による好

ましい作品群である。入選作とは

甲乙つけ難い。

本間さんの「道」は、なかなか

に面白い情景を拾ってユニークに

表現している。視点を変えて対象

を見つめる作者の眼に好感が持た

れた。「けむり茸けぶらし下る

けものみち」などはその例である。

石井さんの「十三夜」は女性ら

しい作者の感情の起伏がよく現わ

れている。ただ、現在の甘さから

脱却して、今少し冷徹さを加味し

て欲しいと思う。

それ以外の数多くの応募作品の

中から、好句と思われるものを抄

録して参考に供したい。

なまはげの住まう五社堂花山椒

大島つむぎ

雪搔くももてなしとなし人待つ

工藤ミネ子

涼風にゆらぎ赤らむ栗のいが

長沢文次郎

草萌える畦来る猫のしなやかに

佐藤 流水

風鈴が先祖の霊を安らげて

伊藤 雅光

初針にくれない糸を通しけり

齊藤 マサ

目を閉じてたたむ旅路や秋扇

大原 春

炎天の田水引く人足早に

齊藤耕之助

顔見えぬまで話しおり暮の秋

石井 進

ぜんまいのそここに干す里の家

伊藤 正蔵

報恩碑めぐりて光る血どめ草

阿部 ミワ

夕涼やゆきずりに逢う郷訛り

猿田ひろ子

お知らせ



書きぞめ

スキー教室・大会開催

五城目町スキークラブ

五城目町スキークラブ（会

長・佐藤俊朗）では、スキー

シーズン中に恋地国設スキー

場を会場にして、いろいろな

行事を計画しています。一月

以降の日程は次のとおりです。

詳しい内容は事務局（伊藤英

紀 52-2468）へお問い

合わせください。

・一月六日 スキー教室

・一月十三日 スキー教室

・一月二十日 バッチテスト

・二月三日

スキー教室、雪まつり

・二月十日 全町スキー大会

・二月十七日

南秋スキー大会

・二月二十四日

バッチテスト

・三月三日 スキー教室

・三月十七日 スキー教室

秋田高等職業訓練校

訓練生を募集

秋田高等職業訓練校では、

訓練生を募集します。

▽募集コース

・高卒コース（普通訓練課程）

- 自動車整備技術科
- 洋裁技術科
- 建築技術科
- 中卒コース（専修訓練課程）
- 溶接科
- 木工科
- 建築科

▽受付期間

一月二十一日～二月二日

▽授業料 無料

▽問い合わせ先

秋田高等職業訓練校

☎45-11828

被爆者の子を

無料で健康診断

財団法人・日本公衆衛生協

会では、原爆被爆者を両親に

持つ人たちのために、無料で

健康診断を行います。

受診を希望される方は、実

施医療機関か保健所へ連絡し

てください。

▽医療機関

秋田赤十字病院

中通リハビリテーション病院

▽実施期間

一月十六日～三十一日

自衛官募集

1月4日～3月31日

自衛官の五十九年度第四次

募集を行います。募集階級は

二等陸士、二等海士および二

等空士です。

詳しいことは、役場住民課

までお問い合わせください。

▽募集期間

一月四日～三月三十一日